

▼チオドロール [注] <製造中止>

【重要度】<製造中止> 【一般製剤名】エピチオスタノール *epitiostanol* 【分類】抗乳腺腫瘍剤

【単位】▼10mg/A [1mL]

【用法】乳腺症・女性化乳房：10mg/回を週1回、4～8週間筋注、乳癌：10mg/回を週3回筋注

【透析患者への投与方法】ヒトに関する薬物動態データはほとんどないが脂溶性薬剤のため、減量の必要はないと思われる (5)

【保存期腎不全患者への投与方法】減量の必要なし (5)

【特徴】アンドロスタン系ステロイドでテストステロン、プロビオン酸テストステロンに比し強い抗乳腺腫瘍作用を示す。エストロゲン受容体と結合して抗エストロゲン作用を示す。

【主な副作用・毒性】発疹，搔痒感，肝機能値異常，悪心・嘔吐，胃部不快感，顔面皮脂分泌増加，脱毛，浮腫，体重増加，赤血球増加，倦怠感，動悸，*moon fase*，頭痛，女性：回復したい嗔声・多毛，色素沈着，顔面潮紅，月経異常，乳房縮小，陰核肥大，性欲亢進，男性：陰茎肥大，持続性勃起，性欲亢進，特に大量継続投与による睾丸萎縮・精子減少・精液減少等の睾丸機能抑制

【MW】311.03

【TDMのポイント】TDMの対象にはならない

【薬物動態】ヒトに関する薬物動態データはほとんどない (1)

【備考】アンドロゲン依存性腫瘍（例えば前立腺癌，男子乳癌）およびその疑いのある患者には腫瘍を増悪・顕性化することがあるので禁忌。また、妊婦・妊娠している可能性のある患者には女性胎児の男性化を起すため禁忌 (1)

【更新日】20120321

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。